

カスタネット

Vol. 50
2025.9

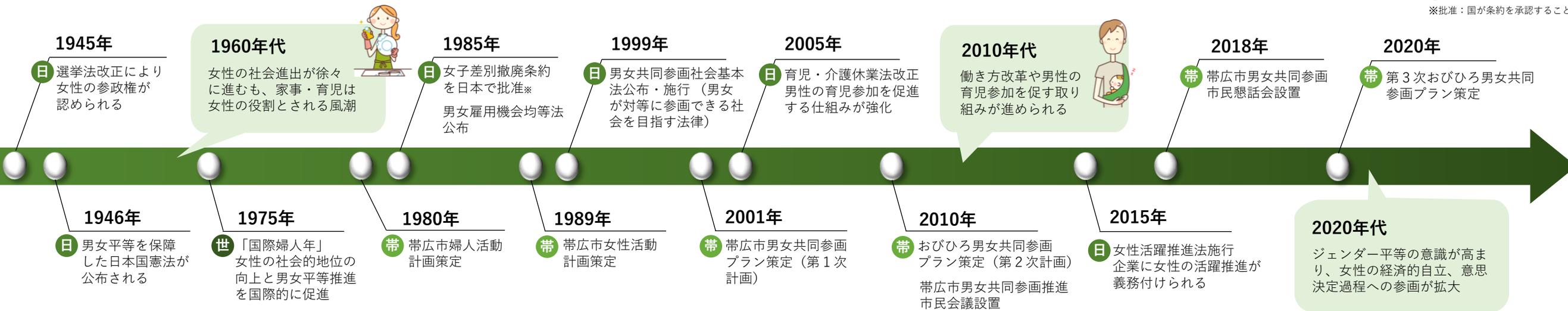


「カスタネット」とは・・・2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

男女共同参画の歩み

男女共同参画とは、男女が互いの人権を尊重し、家庭・職場・地域・政治などあらゆる場面で平等に参加し活躍することを目指す考え方、社会のことです。今回、男女共同参画の歩みがスタートした1945年から現在までの歩みを年表で振り返るとともに、これからの男女共同参画について4名の方にお話を伺いました。

世…世界の動き
日…日本の動き
帯…帯広市の動き
※批准：国が条約を承認すること



男女共同参画市民懇話会
会長 阪口 剛 氏

帯広大谷短期大学
副学長 吉田 真弓 氏



空間W o r k s
代表 山川 知恵 氏



帯広市男女共同参画推進員
遠藤 妙子 氏

カスタネット50号の発行おめでとうございます。2001年の創刊当時から現在までの間、国・道や帯広市において男女共同参画に関する様々な法令や制度が作られました。

同時に、社会の中で「DV」「セクハラ」「男女共同参画」「ワーク・ライフ・バランス」「LGBT」などの言葉が浸透し理解が広まり、人々の意識が変わっていると感じます。本誌も、市民・企業団体の取り組みやセミナーの内容などが男女共同参画推進員（市民ボランティア）の視点に基づいて掲載され、私たちに身近な情報として届けられることで、市民一人一人の意識や実践の支えになっています。

さて今後に目を向けると、近年のコロナ禍や大規模自然災害などの状況下で、性別役割分業意識がまだまだ残っていることが顕在化しました。あらためて、非日常事態における男女共同参画の実現について考えていく必要があるのではないのでしょうか。

また現在は「分断の時代」とも言われ、特にネット上では主義主張の対立が先鋭化しています。男女共同参画の分野にも逆風が吹くかもしれません。このようなときこそ、私たちは地に足を付けた丁寧な議論と一步一步着実な取り組みを進めたいと思います。

学生たちは学びの場で男女差別を受けることはない。でも周囲には歴然とした男性優位社会が存在する。だから学生にはそう伝える。「そんなことはない」「男の方が差別されている」「女性は優遇されている」という人がいる。「男女雇用機会均等法があるじゃないか」と言う。でも雇用の場で本当に男女が同じ評価をされ、扱いを受けているのだろうか。

三十年近く前、数少ない女性管理職になった年、議会の委員会が開催されている控室に待機している時だった。周りは男性ばかり。その中で緊張しながら書類に目を通している私の耳に「お飾りだから」と言う声が届いた。

今年5月、全国大会に係わる農業の会議に出席した。出席者は各団体の会長、事務局長、理事、課長…。事務局職員を含め32名全員男性。女性は私だけだった。「お飾り」という言葉を思い出した。何年たっても変わらない男性社会。

政治家も経済人も女性の社会進出を促す発言をする。でも、それを本当に受け入れる社会になっているのだろうか。受け入れようと本気で思っているのだろうか。「所詮…」としか思っていないだろう。

諦めているのではない。でも学生にはそんな覚悟をして社会に出なさいと伝えている。

「お金が足りない。将来が不安」という漠然とした悩みから、投資や副業の勉強を始め、実践をし、少しの自信と様々なご縁をいただいて起業したのが2014年。

当時お腹の中にいた息子は10歳に成長し、親子共々充実した日々を送っていますが、起業当時はとても苦労した思い出があります。たった11年前ではありますが、「小さな子どもを持つ母親が起業すること」に対し、理解が得にくい社会の空気があったのです。

心配ゆえにかけてくれた言葉だと分かってはいるものの、「起業は子どもが大きくなってからすべき」「母親なのだから家事と育児を優先すべき」という言葉の数々に、当時は悔しく心細い思いをしたものです。

あれから11年。まだまだ「女性の起業」には家庭との両立の難しさや、ビジネススキル・知識の獲得機会の差など課題は山積みですが、社会の理解という点では随分進んだように感じています。

息子に「自分の人生は自分で切り開ける」「楽しくやりがいのある仕事は誰にでもできる」ことを伝えたくてがむしゃらに走り抜けてきましたが、今は誰に言っても共感してもらえますので。

帯広市男女共同参画情報誌「カスタネット」が発行されて今年で25年、今回の発行で50号となりました。

帯広市の男女共同参画プランの中に、ねらい「男女共同参画への意識の向上」現状と課題「固定的な性別役割分担意識に対する偏見の解消」と書かれています。

私たち推進員会では、この課題解決の方法として情報誌の編集や出前講座に取り組んできました。

情報誌の編集にあたっては、働き方改革や女性活躍推進に向けて取り組んでいる企業を訪問し取材に協力していただきました。また、一行詩に参加協力してくださった高校生と対談し、男女共同参画に対する考えや、自分の将来の生き方に繋げていきたいとの思いを聞くことができ、発信の成果を確認することができました。

出前講座は、コロナの流行で途絶えてしまいましたが、新しい朗読劇を準備しましたので、希望があれば訪問し聞いていただきたいと思います。

性的な役割分業に関するアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、偏見）の解消は簡単ではありませんが、次世代に向けての意識改革は進んでいると感じています。

無意識のバイアスを乗り越えて

自分らしさ

のを見つけ方



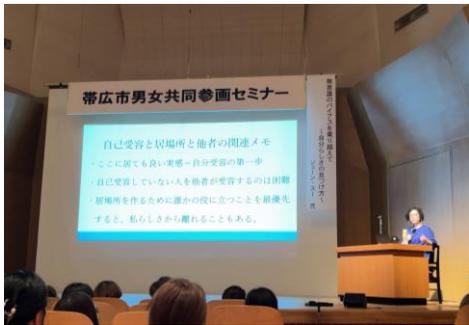
1973年東京生まれの日本人。TBSラジオ『ジェーン・スー 生活は踊る』のメインパーソナリティを担当。ポッドキャスト番組「ジェーン・スーと堀井美香のOVER THE SUN」が、2021年3月「JAPAN PODCAST AWARDS2020 supported by FALCON」にて、「ベストパーソナリティ賞」と、リスナー投票により決まる「リスナーズチョイス」をW受賞。『貴様いつまで女子でいるつもりだ問題』で、第31回「講談社エッセイ賞」を受賞。

講師：ジェーン・スーさん
(コラムニスト、ラジオパーソナリティ)

令和7年8月9日(土)、とかちプラザのレインボーホールにて、コラムニスト、ラジオパーソナリティとして活躍中のジェーン・スーさんを講師に迎え、男女共同参画セミナーを開催しました。「無意識のバイアスを乗り越えて～自分らしさのを見つけ方～」をテーマに軽妙な語り口で参加者302人を魅了しました。

「自分らしさ」の前に、まずは「居場所」について考え、自己受容と居場所が密接に関係していること、そして「女らしさ」「男らしさ」や「普通」といった刷り込みや無意識の思い込みが、自己受容を難しくしていると語りました。自分らしさを見つけるためには、「普通」に惑わされないこと、そして時代と社会の変化を感じ取り価値観をアップデートしていくこと、他人に自分の幸せを決めさせないことが大切だとお話いただきました。

質疑応答では、参加者から今後の生活への悩みなどが語られました。スーさんのユーモアを交えた「失敗してもいいから自分から行動しよう」などのメッセージに、会場は背中を押されました。



セミナー終了後、参加者からは「自分らしさについて改めて考えてみたいと思います」「自分とみんなの『らしさ』を思う存分発揮できる場所を、自分の手でつくりたいと思いました」などの声が聞かれました。ストレートな言葉の中にもスーさんの温かく寄り添う心を感じられたようです。

スーさん、この度はご講演いただきありがとうございます！

推進員だより

帯広市男女共同参画推進員は、市民協働のパートナーとして、帯広市と一緒に男女共同参画を広げるための活動をしています。



新川推進員

今回の50号発行に際して、男女共同参画の意義を確認してみました。やはり、“自分らしく生きる”、“自由な選択”という大きなテーマを、次世代、特に子供達にわかりやすく伝え、考えるという私達の役割があると感じました。

Instagram



市民活動や男女共同参画に関するイベント、講座等の情報を随時更新しています！

帯広市市民活動課



カスタネット 50号 令和7年9月発行

発行：帯広市 市民活動課 男女共同参画係 企画編集：帯広市男女共同参画推進員
所在地：〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1 電話：0155-65-4134



バックナンバーは
こちらのQRコードから
読むことができます